

## 令和元年度 第1回鳴門市総合教育会議 議事録

令和元年8月5日、15時00分に鳴門市本庁舎3階会議室で開会。

同日16時35分に閉会した。

### ・出席者

(会議構成者)

泉市長、安田教育長、寺田委員、甲斐委員、加藤委員、濱川委員

(会議構成者以外)

市長部局

谷副市長、三木政策監、尾崎事業推進監

天満健康福祉部長、米澤福祉事務所長、

黒濱子どもいきいき課長、下地子どもいきいき課副課長

教育委員会事務局

笠原教育総務課長、並木学校教育課長、津田生涯学習人権課長、

中野教育総務課副課長、和田学校教育課副課長、

会議事務局

山崎秘書広報課副課長、石堂秘書広報課主事

### ・傍聴者

3名

・会議は、市長が議事を進行した。

・議事の内容は次のとおりである。

(1) 公立高校普通科の学区制について

(2) 就学前教育・保育のあり方について

・山崎秘書広報課副課長は、15時00分に令和元年度 第1回鳴門市総合教育会議の開会を宣言した。

・山崎秘書広報課副課長は、鳴門市総合教育会議設置要綱第5条の規定に基づき、議事の進行を市長に求めた。

・市長は、議事(1) 公立高校普通科の学区制について説明を求めた。

並木学校教育課長は、これまでの学区制の見直しの経過と県教育委員会への要望の内容について説明を行った。

- ・市長は、公立高等学校普通科の学区制について、教育長・各委員に意見を求めた。
- ・寺田委員は、全県一区は理想ではあるが、受験者の責任も大きくなる。全県一区が子どもたちの夢をすべて叶える制度かと言われれば、そうではないという考えもあると述べた。
- ・加藤委員は、今まで鳴門高校のトップクラスだった生徒が徳島市内へ行き、仮に鳴門高校の定員が増えた場合にレベルが下がらないかを危惧している。ここ数年の間に鳴門高校の立ち位置をはっきりさせ、対策をとる必要があると述べた。
- ・甲斐委員は、各校の定員も決まっておらず、1年ごとに人数や流入率の割合が変わるので保護者も不安を抱いている。早めに方向性が分かれば対応も決めやすいと述べた。
- ・濱川委員は、今後も板野町、石井町と連携してしっかりと要望を伝えていくべきであると意見を述べた。また、鳴門高校のレベルアップのためには、小・中学校の時代からレベルアップを図ることが重要で、長い目で見て前に進んでいく必要があると述べた。
- ・市長は、今回県教育委員会から示された流入率の見直し等について教育長の意見を求めた。
- ・教育長は、県教育委員会で検討を行い、方向性が出されたことは一定の評価ができる。しかし、成績中位から下位の子どもたちが行くところがなくなってしまいうことは避けなければならない。徳島市の定員を増やして、他の高校の定員を減らしたのでは本末転倒。市外の高校へ行くことができる割合の枠組みを行政が作ってしまっていることが問題であると述べた。
- ・市長は、公平・公正に学校を選べるようにしていくのが行政の役目。今は行政が壁を作っている。鳴門市から徳島市の高校へ行こうと思えば、100点程必要な点数が変わってくる。国が普通科高校のあり方を検討し始めた中で、まだ学区制を維持するのかという思いもある。地元の鳴門高校や鳴門渦潮高校をより魅力的な学校にしていかなければならないとも感じていると述べた。
- ・寺田委員は、城ノ内中学校を筆頭に、中学受験をする子どもが増えると考えられるが、鳴門から受験する子も多いのではないかと述べた。

- ・市長は、議事（2）就学前教育・保育のあり方について説明を求めた。

黒濱子どもいきいき課長は、就学前教育・保育のあり方について説明を行った。

- ・市長は、就学前教育・保育のあり方について、教育長・各委員に意見を求めた。

- ・濱川委員は、情報や選択の手段が昔に比べて格段に増えており、何を選べば良いか難しい面がある。資料には「質の高い教育」という言葉が出てくるが、市がそれを実現するために背伸びしている部分もあるのではないかと感じる。保育士の先生もいきなり「質の高い教育」を求められると戸惑う面もあると思う。最も大事なことは子どもたちの人格形成の部分だと思うので、そこを大切にしてほしいと意見を述べた。
- ・市長は、保育所、幼稚園、認定こども園など、どの施設から小学校に上がっても同じレベルで物事ができ、同じスタートができる状態にしていきたいと述べた。
- ・寺田委員は、どこに行っても同じ水準の教育が受けられるのであれば、保育時間の長い認定こども園に行くと思うと述べた。
- ・市長は、幼稚園には幼稚園の良さがあり、昼からは自分で世話をしたいという保護者は幼稚園を選ぶと思う。決してすべてを保育所や認定こども園にして、公立の幼稚園を廃止していこうという議論をしているわけではない。また、本市は全国的に見てもかなり多くの数の幼稚園があり、その幼稚園と小学校が併設しているという特徴を持った自治体でもある。このような過去からの経緯も踏まえながら、子どもたちにとってより良い方策を今後選んで行くべく議論している段階であると述べた。
- ・加藤委員は、例えば成稔幼稚園は新しい園舎で広々としており、子どもたちがのびのびと教育を受けることができていると感じる。少し生活に支援が必要な子どもにとっても過ごしやすい環境であるという声も聞いている。今後大きな園に集約してだけでなく、このように子どもたちがゆったりと過ごせる教育環境を求める声も高まるのではないかと感じていると述べた。
- ・市長は、20代後半から40代前半の働き盛りの人たちが、北島町、藍住町、徳島市に転出している状況がある。この話を始めると学区制の話と関連してしまうが、鳴門市で子育てをしてもらえる環境を整えていかなければならないと強く感じていると述べた。
- ・甲斐委員は、私は市外から転入してきたが、鳴門市の幼稚園はすごく良いと感じている。給食も中学校まで同じものが出されるため子どもたちも慣れており、幼稚園の子どもたちが隣接する小学校のお兄さん、お姉さんの姿を見ながら成長していける。先ほど市長が小学校への接続の話がされたが、それは今でも十分できているのではないかと感じる。ぜひ現状の各校一園の状態を維持していただきたいと意見を述べた。
- ・教育長は、保育所や幼稚園については人的体制を整えることを考えていきたい。現状は若手の教員をはじめ、教職員の数が減っており、突然の休暇等に対してカバーできる体制が

不足している。子どもたちの成長のためにも、再編を図りある程度の集約を行って環境整備を行うことが必要であると考えている。今後より良い保育所・幼稚園づくりのために検討を進めていきたいと考えていると述べた。

- 山崎秘書広報課副課長は、16時35分に閉会を宣言した。